

I 研究等の概要

独立行政法人日本学生支援機構の調査によれば 2007 年度の大学で学ぶ障害学生数は 4,896 人、短大・高等専門学校を含めた数は 5,404 人であり、多くの障害学生が高等教育を受けるようになった。一方、大学全体の学生数からみると障害学生在籍率は 0.15%であり、2,000 人規模の大学における障害学生は 3 人程度である。また、障害学生数が 1 名の大学は 13.7%、在籍していない大学が 42.3%という点から、数年に一度、あるいは初めて障害学生を受け入れる大学も少なくないと推測される。

また、個々の障害学生の支援ニーズは障害種類・程度によって多様であり、かつ在籍する学部等の学問領域における学修内容によってもそのニーズは多様である。さらに、個々の大学によって施設・設備等の状況は様々であり、障害学生の学修のみならず生活や移動等も含めて多様な支援ニーズが存在すると予想される。

したがって、大学で学ぶ障害学生への支援は、高校段階までに障害学生自身が身につけた自立意欲と自立に必要な基礎的な技術を前提にしている。しかし、障害学生が高校段階で受けた支援・指導、および大学で学ぶ障害学生の支援ニーズの具体的内容等に関する実際的な研究は見当たらない。

そこで本研究では、大学で支援を受けている、視覚障害学生、聴覚障害学生、肢体不自由学生を対象にして、大学および高校での支援・指導の実態と、当事者からみた支援ニーズに関する調査研究を行い、高大連携による障害学生支援モデルを作成するための基礎資料を得るとともに、先進的な事例を収集することを目的とした。

なお、本報告では今年度実施した研究の概要をまとめ、今後継続して調査研究を実施するとともに、その成果は筑波大学障害学生支援研究会、研究成果報告書等において発表する予定である。